

第6章 参加者が語る実験サイト「どっとねっと」

6-1 懇談会議事録概要

北海道SNS 「どっとねっと」参加者懇談会 次第

2007/09/08 14:30--@北海道開発協会ライブラリー

1. オープニング
 2. 簡単に開催趣旨と進め方を紹介
 3. 自己紹介（30秒、本番紹介はオフ会にて）
 4. ゲスト「のぶりん」さんからのメッセージ…（議事録に収録）
 5. 「どっとねっと」1年目のトップ功労者表彰
 - ・トップボーダー（書き込み数、訪問者数）
 - ・トップ・レスポンス・オブ・ザ・デイ（イヤー）
 6. 「どっとねっと」の経過
 - アクセス等の概況について（事務局から説明）
 7. 「どっとねっと」の一年をふり返って（意見交換）
 - SNS利用の感想について（アンケートの結果を参照）
 - 「SNSは地域の役に立てるか」「地域の活性化にどう関われるか」
 - 「どっとねっと」の進め方について
- 資料1 アクセス関連データ
- 2 アンケートの集計結果（概要と詳細）
 - 3 地域SNS一覧
 - 4 「地域SNSの活用状況等に関する調査」（要約版）
 - 5 「オープンピーネ」と「アットピーネ」の比較

* 懇談会終了後記念撮影、のちオフ会へ移動

北海道 SNS 「どっとねっと」

参加者懇談会議事録

【懇談会概要】

日 時 : 平成 19 年 9 月 8 日 14 : 30 ~ 16 : 30

場 所 : (財)北海道開発協会 1階 開発ライブラリー

次第

1. オープニング
2. 開催主旨と進め方の説明
3. 自己紹介
4. ゲスト「のぶりん」さんからのメッセージ
5. 「どっとねっと」1年目のトップ功労者表彰
6. 「どっとねっと」の経過報告
7. 「どっとねっと」の一年をふり返って(意見交換)

資料 1. アクセス関連データ

2. アンケートの集計結果
3. 地域 SNS 一覧
4. 地域 SNS の活用状況等に関する調査
5. OpenPNE と@PNE の比較

草苅:(財)北海道開発協会が事務局となります「どっとねっと」の利用者懇談会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。事務局としてお礼を申し上げます。今日は熊本からのぶりんさんを迎えての懇談会ですが、のぶりんさん以外にも全道各所からも何人か来ていただいています。昨年8月にオープンしました「どっとねっと」は、一周年を迎えて現在登録者が約235人、日記書き込みの件数が毎日10件から15件程、アクティブライターの平均年齢が50歳強くらいで異色のところを走っているという評価になりつつあり、お陰様で順調に動いております。

今回なぜ利用者懇談会を開催することになったかということ、これまで「どっ

とねっと」を当協会の公益事業として運営してきていて、今年がその最終年度にあたるため、今後どのように継承できるか、また、していくかということについて、皆様のご意見を伺いたいというのがひとつの理由です。やわらかい会にしたいと思いますので、くつろぎながら参加していただければと思います。では、ここで皆さんに簡単な自己紹介をしていただきます。

～参加者自己紹介～

草薙:「どっとねっと」は1年しか経っていませんが、研究会自体は3年目になります。1年目に始めた時は独自開発したシステムを使っていましたが、1年で挫折してOpen PNE に乗り換えたという経緯があります。そのため3年の事業ではありますが、実質1年ほどしか動いていないということになります。北海道の過疎になりつつある地域を地域SNSで何とか元気にできないかというのが、そもそもの狙いです。

のぶりんさんは、私が「ごろっとやっちょろ」に入った頃からお付き合いいただいていたいて、これまで総務省の座談会に出られたり、「ごろっとやっちょろ」でいろいろと下支えされている中で、かなり大事な部分にいらっしゃるようですので、今回はのぶりんさんを中心としてコミュニケーションの話を中心にしていこうということにしました。

ではこれから早速のぶりんさんにスピーチをお願いしますが、「ごろっとやっちょろ」について、「どっとねっと」へのアドバイスも含めてお話いただければと思います。

のぶりん:台風を追いかけて熊本から北海道までやってまいりました。ハンドルネームが「のぶりん」です。私は一般の主婦ですが、北海道の皆さんの前でお話ができるということで、ありがたく感謝しております。呼んでいただいてありがとうございます。「どっとねっと」の皆さんとお会いできて大変嬉しく思っております。

八代市のことを少しお話ししますと、熊本県の南部に位置していて、人口は14万人ほど、イグサやメロン、トマトが栽培されている田園地帯です。製紙工場のある工業地帯でもあり、観光面では600年の歴史を持つ日奈久温泉、山や川、海があります。川は球磨川、海は八代海という自然豊かな所です。八代のPRに来たわけではありませんが、私はそこで生まれ育って51年になります。

私のことを少し話したいと思うのですが、先程も言いましたが普通の主婦でして、子育ても終わり、たまに孫と遊ぶのを楽しみに生活をしていたんですが、3年前に八代市が運営している地域SNS「ごろっとやっちょろ」に首を突っ込んだら抜けなくなりました。パソコンのパの字も知らない状態でしたが、3年前に「パソコンって面白いらしいよ」ということで買いました。本当の初心者で用語さえ

知らない状態でしたが、ある方から「無料でホームページが載せられる」ということで「ごろっと」のことを聞いてアクセスしてみました。それが2004年の6月ですので、丸3年になります。

最初は恥ずかしがり屋のため、日記も書けませんでした。“子育てママさん”というサークルを見つけて書き込んだら、すごく優しくコメントを返してもらったので、「これは面白いかも」と思い、それから日記を書くようになったんですが、はまりました。日記を書くコメントに癒されるし、楽しいし、夜中までパソコンを見ているような状態でした。「良い玩具を与えてもらったね」という感じで楽しんでいます。

SNSの助言とか提言といった難しい話は私には分かりませんので、私がSNSで遊んでいて楽しいですよ、ということをお話ししたいと思います。

「ごろっとやっちょろ」のことですが、現在登録者数が3千名と聞いています。どこのSNSにもあるように、一時期は盛り下がっていたような感じはします。継続的に盛り上がるというのは、やはり難しいと思います。私は全国で20程度のSNSに登録していますが、頻繁に日記を書いたりコメントを付けたりするところが6個くらいあります。「どっとねっと」もそうですし、下は長崎まで、毎日楽しませてもらっています。SNS=ソーシャルネット・ワーキング・サービスと舌を噛みそうな言葉ですが、「友達の友達は友達だ」といった人と人の心の繋がり、同じ趣味とか嗜好、そういった同じ意味で人って繋がりたいですよ。最近のご近所付き合いも希薄になってきている現状もありますし、それをSNSで電子的に構築して、オフラインでも繋がっていけばユーザー同士が情報を交換したり共有したりしてコミュニケーションを取っていく、それがSNSだと思っています。

輪とか繋がりを如実に感じるのが、「ごろっとやっちょろ」だと思います。年齢も性別も仕事も違う人が「ごろっとやっちょろ」で知り合って、リアルにお会いしてオフ会を楽しんで、困っている時には手を差し伸べて、とても良い関係で仲間づくりができていると思います。地域性なのか、「ごろっとやっちょろ」は元気で明るくて、陽気な人達ばかりが集まって、そういったコミュニケーションが大好きなんですかね。そういった感じで、「ごろっとやっちょろ」は楽しい会の集団だと思っています。オフ会と称した飲み会も頻繁にあるんですけど、それもハチャメチャで、騒ぐし、踊るし、歌うし。オフラインの関係は、どんどん横の繋がりを広げていって、オンラインでも元気になるような気がします。

「ごろっとやっちょろ」の仲間、環境問題に一生懸命に取り組んでいる人がいます。地域の川を、昔みたいに子供達が遊べて蛭が飛び交うような綺麗な川にしようと「牡蠣殻祭り」と称して、牡蠣の殻を川に放つことをしています。牡蠣の殻というのは川を浄化するそうで、もう5回を数える大イベントになっています。

このイベントの掲示板が「ごろっとやっしろ」の中にあるのですが、そこで呼びかけて主旨に賛同した人達がボランティアで集まり、今年も大成功を収めました。主催者の方にお聞きしたんですけど、この会を継続的に盛り上げていきたいということで、テーマソングを作られたそうです。そのテーマソングも神奈川県にいらっしゃる方で「ごろっと」に登録している人なんですけれども、その方に詞を書いてもらいまして、素晴らしい会の歌ができたみたいです。すごいネットワークですよ。

後は、まちおこし的なこともやっていて、これも個人の一主婦の方なんですけど、「やっしろを盛り上げんでどぎゃんすつと？やっしろのこぎゃん良か品物を宣伝せんでどぎゃんすつと？」と言って、「東京の練馬区のお祭りに、私は乗り込む。この特産品をPRしに行く」と日記か何かに書いたんですよ。それで「私に何かできることある？」という主婦が10名くらい集まって、ボランティアとして実費で乗り込みました。その方は練馬区の方と知り合いだったようですが、そういうことでテントもちゃんと貸してくださったりして、その中でPRしてきました。その報告を先日市長にしたんですけど「行政が動けることは何でも言って下さい」と、力強い言葉をもらいました。来年は市長も練馬に行かれるんじゃないかと思います。「ごろっとやっしろ」の主婦の力が行政まで動かしつつあります。

他にも子育てサークルや地元物産の活性化など、たくさんの思いつきが活動へと育っていったり、今までの活動が活気づいたり、「ごろっと」パワーは恐るべしです。このような活動と仲間に出会える地域SNSに出会って、私の後半の人生をすごく楽しく、感動的な、面白いものにしてきている地域SNSに、本当にありがとうございます。

ある方から「のぶりんさん、「ごろっとやっしろ」と出会ってなかったらどうしていたと？」と聞かれたんですよ。「分からんね。多分ポーっとしていたんじゃないかな」と言いましたけど、本当にそう思います。

「どっとねっと」の印象ですけど、去年の10月からお世話になっています。日記でも専門的で濃いし、真面目な感じを受けるんですよ。Otsucarさんはごろっとにもいらっしゃっているからご存じかと思いますが、すごいですよね。

Otsucar : 50~60くらいはレスが軽く続きますね、どんどんと。

のぶりん : そうですね。日記1つ書いたら40~50とか。それがくだらない話なんですよ。最初の「今日は楽しかったね」から始まるとしたら、全然話が違う、めちゃくちゃになって、最後は「何の日記だった？」と。Otsucarさんも50~60くらいになってましたよね。

Otsucar : そうですね。本人がいない時に進むから、ついて行けないんですよ。

のぶりん : あと、「どっとねっと」は割合的に女性が少ないんでしょうか。

草苺 : 女性は34人となっていますが、不明が114人います。

のぶりん：やっぱりコアメンバーさんに女性が多いと、すごくパワフルですよ。私みたいな「ヒマ酒婦（主婦）」と言われても、朝起きたらまずパソコンを立ち上げて、キッチンに置いてあるものですから台所のことをしながら、「何か入っていないか、今度は北に行こう、南に行こう」とあちこちを彷徨っています。すごく楽しませてもらっています。

これからも「どっとねっと」はずうっと続いてほしいんですけど、この「どっとねっと」の存在を多くの方に知ってもらえたらいいと思います。人数だけではなく中身も問題だとは思いますが、コリンのママさんとか owl さんとかもいろんな活動をされていますよね。いろいろ発信することもあると思います。いかがなものでしょうか。

私が全国版で登録している中には、「ここは登録だけで終わりだな」という所もあります。それはなぜかと考えますと、日記に返ってきたコメントの内容がユーモアを感じる、癒されるようなものだったら「また来よう」という気になりますね。「どっとねっと」も本当に楽しませてもらっていますし、暖かいコメントとかピンピン感じていますよ。すごく楽しみです。

最後になりましたが、このように全く知り合えるはずもないし、何の共通点もない方達と、SNSを通して奇跡に近いような確率で仲良くなっていきますよね。私にはそれがたまらなく楽しくて、止められないと思います。死ぬ時もパソコンのキーボードを触っているんじゃないかと思うくらい。本当に今日はありがとうございました。

草苺：オフ会はどのくらいの頻度でなさっているんですか？

のぶりん：決まってはいいんですが、「ごろっとやっちょ」はよく表彰とかされているんですよ。その度に受賞報告という形で集まったりしています。回覧板というシステムがあって、そこに貼って回せば皆に回ります。

Otsucar：回覧板が来たら「見た・読んだ」という部分をクリックすればいいし、コメントも付けられる。あれはすごく良い機能です。

のぶりん：そうですね。回したくない人にはチェックを付けなければ良いです。私が知らない間に回っているかも知れませんが。すごい機能です。でも、残念ながら「ごろっと」には携帯電話から見られる機能がないんですよ。「バージョンアップはする」と言いながらも、まだまだ。忙しいんですよ、担当のKさんが。

Otsucar：携帯の機能がないのに、あれだけ書き込みがあるんですか。

のぶりん：皆さん、多分パソコンからです。私は携帯のパソコンサイトビューア機能を使って携帯から入っています。定額のプランに入っているので月に5千円程で使っていますが、入ってなかったら20万~30万円はかかっていると思います。携帯機能は便利ですね。だから、「どっとねっと」に夜に来る時は携帯の方が多いかもしれません。

草苺：携帯と繋がるようになってから、アクセスが増えています。

のぶりん：そうだと思います、便利ですし。

草苺：「どっとねっと」は1周年になりますが、中を見ていると記念すべきことがいくつかあります。1つは書き込み者数と訪問者数でトップボーダーは owl さんですが、アクセス数はどれくらいあるんですか？

owl：13,000 程です。

草苺：owl さんには、「どっとねっと」のこの1年の牽引役を結果的にしていただいた格好になっています。それから、コリンのママさんが3月に1日3桁の訪問があって、その記録が破られていません。実験サイトとしてはその理由も大事ですが、結果としてはなぜこうなったかは分かっていません。owl さんとコリンのママさんが、ここ1年間の「どっとねっと」を下支えしてくれたことは一目瞭然だと思ひまして、本日は功労者表彰をさせていただこうと思います。ささやかではありますが記念品を用意しました。(一同拍手)では簡単に受賞のお言葉をいただきたいと思ひます。

コリンのママ：なにが原因か分からないので、答えようがありませんが、1つ言えることは、私はレスポンスの時間が限られておりまして、仕事柄、朝と昼休みと夕方と夜という形になりますが、お昼休みに覗いた時に集中的に利用することが多いです。もう一つは、先程ののぶりんさんもお話しされていましたが、町づくりの事務局を2つやっております、その発信をするのに「どっとねっと」を利用させていただいている面もあります。もう1つは、大学というのは閉鎖的なものですから、そういう中にいる人間が外に何を発信したら良いのかと思う時に、今の若い人の実体を発信してみようかと思ひまして、それに関して皆さんからレスをいただいて、それに対してコミュニケーションを取るために出てきたのがこの結果なのではないかなと思ひます。ありがとうございました。

owl：実は take さん、コリンのママと、順番に騙された最後の人間です。最近では老眼が進みまして、画面が見づらくて、夜になると書きづらくなって、万歳気味です。いろんな経験はしていますけれども、いつも挨拶の中で言うことは、人一倍恥をかいてきた分、ものは言えますという言い方をしています。これからどうぞよろしく願ひします。ありがとうございました。

草苺：ありがとうございました。もうちょっとだけお付き合いしていただきますと、「どっとねっと」は管理者側の方には日々のアクセス数だとか、それを中心にして曜日毎の集計など、簡単なデータを取れるようになっていきます。それを見ますと、例えば owl さんがどういった話題を書いた時にどういう盛り上がり方をするかとか、私のように固い内容を書いた時にはレスが少ないなど、時々実験をしています。あるいは事務局が1日3つずつ日記を書くとかどのくらいのレスが付くかといったことも密かにやってみました。実験と言っても変な意味の

実験ではなく、そういったことを仕掛けた時に返ってくるということをアクセス数で見えていくということです。それが実験の一部分です。それをスタッフの齊藤がまとめましたので、説明いたします。

～ 齊藤より資料説明～

草苺：こういったアクセスを集計したものを北大の情報工学の先生に見てもらいました。例えば土日にはアクセスが少なく、月曜日にアクセスが一気に増える、つまり、土日はちゃんと家のことをやってそれを月曜日に書き込まれるというケースが多かったのですが、今は少し変わってきています。それと、夜中の2～4時のアクセスが少なく、深夜型が少ない。そういったデータをご覧になって、「このSNSは極めて健全な人達が入られているSNSではないか」というお話が先生からありました。

また、先生は「増やせるところまで増やすべきだ」というのが最初のご意見だったのですが、最近の「どっとねっと」の現状をお話していると、増えれば良いというのがなくなってきました。これから継承していこうというシステムが、最大でどのくらいまで耐えられるかというのに関係してきます。mixi と対決する必要はありませんが、どのくらいのところが一番うまみの多い、顔の見えるコミュニケーションかということだと思います。

資料のコメント数と日記分類というところで、別の整理をしますと、日常ネタに支えられて時々地域の問題、個人の悩み、社会問題、時事問題といったものが出てくる。ピラミッドの中の底辺のところにはたくさんものがあると、上の方がポツポツと出やすいというふうに見れるのではないかと思います。少し変わっていると思う部分は、普通であればスポーツなどにもう少し集まっても良いのではないかと思います。少ない。そういう特徴もあるようです。やはり楽しみながら日常的なコミュニケーションをしつつ、北海道全体の地域ネタといったものも拾えれば良いな、という願望から言うと、北海道の市町村コミュニティの参加者が多いのは幸いだったと思います。

実験サイトの実験という言葉は誤解されやすいキーワードですが、実験の内容というのはこういった数字とキーワードをくっつけながら見ていくといったものだとご理解ください。

以上ですが、何かご質問等ございますか。

Otsucar：予算というのはどのくらい出るのですか。大体の数字で構わないので出してもらわないと続けられるかどうか分からない。

草苺：レンタルサーバー代は月額1万8千円くらいです。千人くらいまでは入れるキャパはあるので、その部分で余裕はあります。それが経常的なものです。初期

のセットアップにかかる費用を別にすればランニングコストはこれだけです。ノウハウは佐藤さんを中心にできあがっているの、移ったりする部分については、経費はほとんどかからずに行けるといえるということになります。

隊長：のぶりんさんにお聞きしたいのですが、「ごろっとやっちょろ」は初めて自治体が運営するSNSとのことですが、スタート当初の電子会議室からSNSになって参加人数が一気に増えたと聞いています。行政が運営主体であるにも拘わらず、なぜそんなに賑わっているのでしょうか。個人的には役所が運営していると固いというイメージがあるのですが。

のぶりん：使っている側からは、自治体が運営しているといった感覚がありません。自治体の人達が参加されていないからだと思います。口出しとかもありませんし。開発は市の職員の方が1人でやっています。

隊長：「ごろっとやっちょろ」は実験的にやっているということなんですが、6人同時テレビ会議機能というのがあると聞きました。これはどういったものですか？

のぶりん：私は使ったことはありませんが、パソコンにカメラを付けてやっている方もいらっしゃるかもしれませんね。

bun：先程リアルな方がかなり先行していると伺いましたが、オフ会の範囲というのはどれくらいの規模になるのでしょうか。町内会とか地域全体とか、九州全体とか。

のぶりん：オフ会になったらご近所さんです。車で15~20分くらい走れば皆に会えるようなところですので。だから住所と名前を言ったら「あ、あの方か」といった感覚ですね。

コリンのママ：先程静岡に住んでいる方とやり取りがあったという話を聞きましたが、まったく離れたところでのオフ会というのはあるんですか？

のぶりん：川崎には行きました。川崎ではフォーラムのような感じで1の方が発表するというので、私が付いていきましたが、その時は川崎でオフ会までしていただきました。

Otsucar：「ごろっとやっちょろ」からは何人参加したんですか？

のぶりん：参加は、発表した方と私の2名で行きました。

コリンのママ：それはどれくらいの人数が集まったんですか？

のぶりん：12~13人くらいですね。リアルにお会いすると仲良くなりますよね。書き込みだけでは誤解を招くのもありますし。

コリンのママ：地域ネットで自分が分からないことに関して、どうレスしようかといった悩みみたいなものってありますか。

のぶりん：ありますね。あとは専門的なこととか。読むだけです。

隊長：携帯からのアクセスができないということで、そうするとパソコンを持っている人と持っていない人、使える人と使えない人で分かれることになると思うの

ですが。

のぶりん：「「ごろっとやっちろ」って何？」っていう方もいらっしゃるんですよ。友達でもパソコンを触らない人もいます。だから結構分かりますね。私は何にでも入ってみたい性格なので。

隊長：そういう他の人が楽しんでいることに関して、文句を言う人はいないんですか。

のぶりん：中に入ってみないと、どんなことをやっているかが分かりませんので。知らない人は、存在自体を知りません。

草苺：パソコンが使えるか使えないか、光回線が来ているか来っていないか、いろんな格差みたいなものが出てきますから、微妙な問題ですよ。ね。「どっとねっと」の一連の流れの中で不思議に思うのは、役所系の人の参加が少ないことです。各地域にランチのような格好でコアになる人達がいらっちゃって、それで北海道SNSという名前も出てくるんですが、各地域の自治体の友人・知人に「入ってくれないか」と声をかけたんですが、入る人が少ない。入ってもほとんど書かない。それが1つ。それと国家公務員の関係でも何人が登録はしてくれたんですけど、続かない。書き込んでくれない。総務省のデータの中には「人格が2つないと、公務員は書きづらい」というのがありました（笑）。

隊長：行政機関の場合は、業務以外のアクセスを禁止している場合がほとんどです。

草苺：資料の中の「mlit」というホストは、洞爺湖サミットのための研究会で入られた運輸局の方達です。開発局の場合は地域振興対策室というのがありまして「そういうところの室長だけでも入ってもらえないだろうか」とお願いしたところ、「入れない」と言われました。掲示板もだめなようです。

それでは一旦休憩としまして、後半に入っていきたいと思います。

～休憩～

草苺：それでは後半の部に入ります。最後は「どっとねっと」のこの1年をふり返って、次年度以降どういうふうに繋がっていきけるかということをお話していこうと思っています。それでアンケートを取らせていただいたところ、皆さんのご意見が非常に建設的で、集計したものを資料として用意しました。簡単に要約しますと「役に立ったか」という質問には「結構良い線に行っているのではないか」ということです。離れたところでもできたり、ネットを使わなければ決して会えなかった人達と出会えたり、といった意見が多く見られました。

Q3では、みかんさんが面白いことを書いておられて、今日の後半の話とリンクする部分もあるのですが「「どっとねっと」自体が1つのコミュニティのようになっているのが興味深い」。これは結局、今は250人程ですが500人を目指すのか1000人を目指すのか、という部分と微妙に関わってくる部分なんです、

口コミで始まっているために誹謗中傷や荒らしなどの書き込みは来ていない状態です。これをもう一度新聞などに出して参加者を増やすといった時に、1つのコミュニティとか2つのコミュニティとか、もっとバラバラになるとか、そういう選択肢も必ず出てくるわけで、そのこともいずれ考えていかなければいけないと思います。大所帯なのか、小さな所帯を目指すのか、その部分を見極めていく時に、来年以降のシステムをどのようにするかということと微妙に関係してきます。このアンケートで書いてある以外に言っておきたいことなどありませんか。owlさん、どうですか。

owl：被験者ということで、いろいろ書いてきました（笑）。その中でやはり実感しているのは、のぶりんさんが言っているように、女性がほしいです。女性の日常的な会話が日中にやり取りされるような。実は福岡のベイリーにも入ってるんですが、ベイリーからは　さんが来てくれていて、彼女はベイリーが嫌になると「どっとねっと」に来るんです。なぜかと言うと、突っ込みが激しいんです。「やっちょろ」とは全然違う突っ込みで、これが恐ろしいです。ロム返してというのがありまして、挨拶返しをしなければいけないという強迫観念にかられている人がすごく多くて、止めてしまう人も結構多いです。「やっちょろ」は健康児の集まりです。携帯からのアクセスが多いので、昨日「　」が久しぶりに日記をあげたんですが、1日のアクセス数が192です。そういう不思議なところですけど、「どっとねっと」にそういった要求は無理でしょう。でも、女性が増えてもう少し元気であってくれれば、男性も入って行きやすいのかなと思ったりはしています。今動いているのはおじさん中心ですから。

草苺：その通りだと思います。男性だったら奥さんに繋ぐとか。私は個人的に自分の書いた日記を妻に見られるのが嫌なので踏みとどまっているんですけども。それはともかく、アンケートのQ5では「続けるべき」という回答が圧倒的に多い。Q6も入れますと、ボランティアで運営することに関して前向きな回答が多く、何らかの形で継続してほしいという声が圧倒的に多いです。今は公益事業としてやっている手前、参加者にご迷惑をかけないよう、常に万全の体制でバックアップを取っていますし、エラーが出たらすぐに修復できるような体制になっていますけれども、その部分をもう少し緩くするとだいぶ身軽になるという現状はあります。以前から事務局の中では、そういう形で行けば、という次の策が見えてきていました。ここで「どっとねっと」のシステムを担当してくれています佐藤さんに、上手なソフトランディングの方法について説明してもらいます。

～佐藤さんより資料説明～

草苴：ありがとうございます。大きくまとめてみますと、現在の「どっとねっと」とほぼ同じ機能を@PNE（アット・ピーネ）が持っているということと、今のデザインが、佐藤さんのボランティアでほぼそのまま移してもらえるとということを念頭に置いていただきたいと思います。

それとデータがゼロからスタートということでドキッとされるかもしれませんが、今まで書き込まれた内容が履歴として必要だという場合は、佐藤さんがおっしゃるように、例えば紙ベースで取っておくとか、何かの方法がありますし、佐藤さんが手がけているように、エクセルか何かで保存できる方法が見つければ、それが各自に共有できるような方向にもなりますが、まだ確約はできません。無料の掲示板でも同じなのですが、過去の一定の件数以降のものは自動的に消えていきますので。例えば私の場合は、残しておきたいものというのは Word に残したりしているのですが、佐藤さんのお話でも分かる通り、今までの履歴がほしいといった場合には、システム上そっくり移動するというのが、リスクが大きすぎるというふうにご理解いただいた方がいいと思います。

私どもの今の事業の中では、この「どっとねっと」の1年を、これから地域でSNSを運営する人達の参考になるように、失敗も成功も実験の内容も1つのCDに収めて、必要な方には冊子として見れるようにしようとしているところです。その中の1つには、「OpenPNE で興す場合にはこうやったらできるよ」あるいは、今日のぶりんさんが来てお話しいただいたように、「こうやったらSNSは活発になるよ」というヒントまでつぎ込んだメッセージのある100ページちょっとくらいのデータ集兼マニュアル集を作る予定です。その中に今日のお話のコンテンツなども盛り込んでいこうと思っています。こうやればSNSはやっていける、それも@PNEを使った場合、結局無料で500人規模のSNSを興せるということになるわけです。そちらの方へ移行する道が一番近いというのが事務局の意見交換の中で浮上してきている現在のところのゴールです。

ただ、デメリットの中で、いつでも停止できるというのがありました。これは「どっとねっと」に限らず、「ごろっとやっちょろ」も規約の中でいつでも止められるというふうになっています。つまり参加した時には、いつ止めても文句が言えないというふうになっています。「どっとねっと」もそういう規約を真似ておりまして、中には突発的な事故が起きてそれを修復するのに何百万円もかかるような時には、もうそれ以上はできませんので、そういうことをいちいち説明しなくても良いように、「一方的に止める場合があります」ということに同意いただいて参加されているということです。こういうのは、必ずどこかに書いてある可能性のある文言だと思っていただいて良いと思います。

結論を申し上げますと、今のまま進めていって今年度の終わりくらいに並行して@PNEを立ち上げていって移行していく、と。今の参加者の方にもお知らせ

しますので、移っていただいて書き込みを始めていくということです。ゼロスタートというのも考えようですが、新しいページが始まると思えば、それはそれで良いのではないかと思います。どうですか、小椋さん。

小椋：現実的な話で良いと思います。ただ、イメージが湧きにくいのですが、「札幌っ子」に参加された方はお分かりかと思いますが、要するに「札幌っ子」に入るというイメージを持てば良いわけですよね。「札幌っ子」が@PNEを使って500人くらいの人が入ってやっているわけですから。私は「札幌っ子」もやっていますが、「どっとねっと」に入ってから「どっとねっと」の方が気持ちいいな」という感じを受けています。たまに「札幌っ子」に入ると、広告が邪魔になるイメージがあるんですが、あれは自分が大して参加していないからじゃないかと思っています。自分が参加してフィールドが持てるようになると、気にならないのではないかと思いますね。僕らとしては運営者側には透明性の高い、やわらかい運営をしてほしいと思います。

草苅：ありがとうございます。佐藤さんが資料に書いていますが、管理者の主な作業の部分に今のスタッフがやっていることが書いてあるんですけど、幸い大きなトラブルはありませんし、何かあった場合でも、「どっとねっと」の場合は「今、止まってぞ」とメンバーに電話をいただいて知るといったこともありますので、もう既に利用者が管理してくれているという状態です。

でも、それでも落ち着きが悪いから誰かトロイカ方式でも良いから、例えばOtsucarさんとowlさんと私と3人がやるとか、キャロルさんにも入ってもらうとかして、動かしてみるという対応はあると思います。システム的には佐藤さんが多少のことならボランティアでやっても良いと言ってくれています。

先程小椋さんの話にもありましたが、「札幌っ子」と「どっとねっと」のトップページを比較した場合、随分雰囲気が違うと感じると思います。あれは努力の成果だにご理解いただきたいのですが、「中高年の好みの色は何色か」という部分から入っていています。北海道のマークや行間等、いろいろ考えてあのデザインになっています。失敗材料というのはXOOPS(ズープス)というシステムを使っていて、いろんな人が作成した日記や掲示板等いろんなコンテンツをこちらで組み合わせて使うということを1年ほどやっていました。それが失敗しました。その反省に立って、違うシステムに移っても、あずましい雰囲気の出るように工夫しようというのが今の結果なんです。キャロルさん、方向性としてはどうですか。

キャロル：方向性というか、何とか続けていきたいというのは皆さん同じだと思いますので、任せるしかないというのが本音です。

Otsucar：スポンサーを少しずつ集めてやるというのはどうか。「札幌っ子」や「旭川」にも入っているが、一斉にアクセスするせいか、サーバーが動かなくなる時がある。

それについて管理人にメールを送っても「サーバー会社が対応してくれない」という内容のメールしか返ってこない。それならうちの方でスポンサーを探してということではできないだろうか。

草苺：サーバーを誰か入れて、個人で運営するかわりにコマーシャルを付けるということですね。

佐藤：そうですね。

ひろぼん吉：今使っているサーバーをオホーツクコネクトと同じ所で預かるという形で、管理については今までと同じ状態でやってもらうということも可能ですか。

佐藤：レンタル費用を負担さえすれば可能です。ただ、URLが変わります。

草苺：独自ドメインは飾りみたいなのところがありますので、それほど拘らなくても良いと思います。

隊長：今後継続していく上でいくつかの選択肢があると思うのですが、逆算していつ頃までに確定すれば良いのでしょうか。

草苺：例えば年度末を一つの時期とした場合には、協会の新年度の計画の関係もあるので、11～12月には方向を決めたいと思います。現在は公益事業でやっていますが、協会という公益法人が「有意義な地域貢献にあたるから継続してはどうか」と自ら意思表示する可能性もゼロではありません（注：実際はこの方向に進んだ）。ですから、資料は一つの書き方であって、まだ混沌とした状態ですので、逆算してどうこうということまで考えていません。

隊長：協会さんが運営主体であったことに、私としては安心感がありました。だとすれば、これからの北海道のために非常に有意義な場を提供して下さっていると、私個人としては感じています。すべてを公益法人に任せるのではなく、アンケートでも皆さんがお手伝いできると回答していますし、是非そういった観点からも検討してもらえればと思います。

草苺：おっしゃることはよく分かります。私もそういう気持ちですから。今は、やり始めて区切りを迎え、次の流れに移って行く時に、いろんなケースを考えてスムーズに移行できるように苦心しているわけですね。今の時点で誰が何をやるか、何を負担するのか、そういったことを細かく詰めて、尚かつトラブルがあった時にはどうするのかということまでやってしまうと、実は裏にはたくさんの仕事が山積みのようにあるわけです。それを簡単に整理ができませんし、そのためにどういう方向が良いかということで大きな方向案としてだしてみたものです。

コリンのママ：これからの社会にはこういったコミュニケーションが必要だというようなデータの一つとして、もう少し深化したデータを取るために継続するというふうに請願はできないものか。このアクセス数と利用者ではスポンサーが集まるとは考えにくいので、もう一つ使命をかけていただいて、私達がこれからも実験を

継続するという形はどうでしょう。

草苺：大変建設的な意見でありがたく思います。残念なことに、それを即座には約束できない話になってくるので、立場上その部分でちょっと困りますが、方向性としてはおっしゃるような所も入っていますね。いくつかの選択肢というのは頭の中に描いて、その中の真ん中の部分に@PNE への移行というものを中心にしておきながら、それでも頑張ってみているいろいろな可能性を模索しながら試行錯誤する必要はあると思います。その部分のご意見をいただいて大変参考になりました。

一つだけご了承いただきたいのは、努力はしてみますが、駄目な場合、最後の手段として@PNE に移行するという方向を描いておいていただければと思います。でも、最後の手段がそれほど悪いかというと、そういうことでもない、ということです。

今日は本当に長い時間、ご協力ありがとうございました。

(編集とりまとめ：斎藤新人)

表 6-1 北海道 SNS 「どっとねっと」アンケート集計結果（原表）

No	ニックネーム	受付	Q1. あなたはどっとねっとを利用していますか？(その内容)	Q2. これまで使ってみて「よかった」「なにかに役立った」と思ったことはありますか？それはどんなことですか？	Q3. これまで使ってみて苦労したり、ちょっと疑問に思ったり、不満を感じたり、特に改善して欲しいと思ったことはありますか？それはどんなことですか？	Q4. これまで使ってみて、これからの北海道の各地でも、コミュニケーションや地域の活性化に役立つと思いますか？	Q5. どっとねっとは、今年度で予定の社会実験が終了し、次の段階を迎えています。この「どっとねっと」をなんらかの形で維持・継続した方がいいと思いますか？	Q6. 運営には動作環境の点検など日常的な管理と連絡体制が必要ですが、あなたは日常的なネット巡回や維持管理の一部について、奉仕活動として協力するつもりはありますか？また、あなたの思いやアイデアがあればお聞かせください。
1	g.gさん	7/11	利用している。単なるユーザーということではなく、仕事としても関係しているため、少しみなさんと微妙に立場は異なります。	私の場合は殆ど私的な日記を書き込んでいます。これまでやっていたミクシーでは、コミュニティの管理だけを行って、日記は殆ど書くことを辞めました。余りにも多くの人が参加しすぎて、プライベートなものを書くのはどうしたものかという気になったことも原因の一つです。それに対して、どっとねっとは、参加者みなさんの顔が見えるような気がして、安心して私的な日記を書き込める気がしています。また、それに対する反応もマイルドでなかなか心地いいと思っています。自分の世代に近い人が多いのも、なにか、安心感に繋がるようなものを感じさせます。	どっとねっとに対する不満や改善点とまでは言いませんが、もう少しイベント企画的なものを主催者がやったら楽しいだろうなと思います。今月のクイズとか、今日の面白情報とか、主催者がインフォメーションなどをフルに活用して、エンターテインメントなところを出してもいいと思うのですが、今後の受け皿に期待したいですね。後一つ私的なことを書き添えておきます。これは、どっとネットに対する不満ではなく、少し自分自身がとまどっていることです。若干、デジタル文字を使いこなせない自分にとまどう事があります。絵文字などを使うことにまた自分の中で少し抵抗があります。絵文字を使わないことで、書き込んだ相手にどう思われているか疑問だと心配になることもあります。かと言って、絵文字などを使いこなそうという気になれない自分があります。いつも流行に逆らって生きてきた性分がここでも抜けません。こういう文化が当たり前になってから、重い腰を上げるのが私の性分です。	役立つと思いますよ。ただ、一気に地域の活性化というものを目指すのは無理でしょうし、そんなものをめざしてもいいSNSはできないと思います。まず、日常会話が楽しい たまに世間の時事ネタ(企業不祥事、中国問題、災害の問題)などについても関心を持ち合う ごくたまに、固いテーマ(苛め問題、都市と地方の問題、地産地消、創成川の開発問題など)について議論をするというのが考えられるところでしょうか。そういう意味では、どっとねっとは、バランスが取れているのではないのでしょうか。コミュニティに仰々しくテーマ立てをしなくても、日記にそうしたテーマが立ち、議論が展開するのを見てきましたが、日記の書込みが非常にバランスが取れているということでしょうか。とりあえず、日常生活のことについて楽しい会話ができることがまず基本であり、それが正常に行われていれば、あと、時事ネタや、難しいテーマにも自然と発展するものだなと感じました。最初から地域活性化について、などというテーマを立てても、長続きしないと思います。(ちなみに、私自信は私的な日記しか書いたことがないので、皆さんのバランス感覚に感心しているばかりです。)	この話が出てから、少し、考えてみました。どっとねっとが突然無くなったらどんなものだろうか。なくなっても生活に困るものではないけど、少し生活やコミュニケーションのバリエーションが減ったなという気分がさせられるなと思いました。オフ会も1、2回参加しましたが、なかなかいいもんです。そして、なにより重要なことは、私の場合は先ほどから書いてますように、自分の私的な日記とそれへの皆さんのコメントというのが、あるとき、重要な自分の履歴または資産だなど感じるようになりました。自分でブログを立ち上げている人は、自分のブログに対してそう感じているのではないのでしょうか。そういったものを感じるようになり、他人様の日記に対してもそれを感じることが出来ます。花や植物、ペット、趣味の楽器演奏や練習などみなさんそれぞれの個性のなかで日記が発展しているのを見ることが出来ます。そう考えると、みなさんもそれぞれの履歴、資産のようなものをお感じになっているのではないかと思います。皆さんのコメントがある日記、そして、ネット上である一定の気心の知れた参加者どうしのコメントのやり取りができていく日記というのはいいものだと思います。ということで、どっとねっとが維持・継続できればいいなと思うわけです。	奉仕活動と言われるとちょっとどうかと思いますが、ボランティアとして、応分の協力はできるかなと思います。ただ、極端に特定の人物に予期していない負担がかかったり、突出した考え方の人の参加運営により、偏向的な運営になることだけは避けたいですね。そうなる、自分自身も白けてくような気がします。あくまでも、オープンで民主的な管理運営体制 参加するもしないも自由(意思の自由) いつでも参加できる若しくは参加することが出来る(将来的な自由) ……というようなことをみんなで決められるような体制が出来たら望みます。そのためには、現在のコアメンバーから維持継続したい人たちによって、今後のビジョンや継続の体制についての意見交換 ビジョンや規定 体制づくり それぞれの役割分担の遂行のような手順によって、任意団体 NPOなどが考えられるでしょうか。現在の、主催者の人物に対する皆さんの信頼感というものを過小評価すると間違えると思います。主催者の牽引力は大きいと思います。大局をつかみながらマイルドな進め方をするやり方が、皆さんの安心感、信頼感に繋がっているような気がしていますので、そこを中心に据えて今後も継続していく方法を模索することが、一番大切なことだと思います。
2	k.rさん	8/3	利用している	実際の友人が出来たり、当店のイベントに来ていただいたり、オイル交換等の売上にもなりました。	日記にコメントを書き込む時、写真を添付できれば良いです。コミュには写真を貼れるのですから何とかなる物なら…	参加する人の意欲です!!!	是非継続をお願いします。維持費が掛かるなら各自で負担しても良いかも…(金額は年間1000円程度)	PCは素人なので、ゴミ拾いなら…
3	o.eさん	8/3	利用している	自分が住んでいる地域や活動の情報発信・北海道民であることの意識の高まり・北海道の課題、問題、などが勉強できる	・不満や疑問・改善要求などは今までありません・苦労という程のことではないのですが、皆さんとネット交流するのに いろいろな意味で自身の素養のなさに申し訳ない気持ちで沸くことが しばしばあります。	・コミュニケーションや個人の生活活性化には役立っている、影響している と実感しています そしてそのことが地域活性化に繋がる可能性は充分あると思います	・維持継続を望みます理由はQ4の答えが主です	・奉仕活動協力する気持ちはあふれるほどありますが、 そうった技術や能力を身につけていません…ごめんなさい
4	k.jさん	8/3	利用している	まだ「よかった」という実感がありません。	始めてまもないので、教官の言いなりです。	役立つとは思いますが、	できれば継続した方がいいと思います。	パソコン操作が未熟ですので、残念ながら協力できません。
5	t.cさん	8/4	利用している 利用させていただいています。SNSを知らなかったPC音痴のものでも楽しく参加させていただいています。今後もズ〜と利用したいです。	お友達の輪が地球規模で広がった。知らなかったことを知ることができた。 自分を知ることができた。 北海道や社会の出来事に関心が深まった。 まだ未参加だけでも、オフ会に参加できる。	SNSの特徴かもしれませんが、オープンなところとクローズなところ(コミュニティの関係)がある。これは仕方がないところなので、全体への告知版のようなところがあると良いのではないかと。	それはもちろん役立つと思います。地域にはいろいろな資源があり、活動(生活)されている方がいる。どっとねっと(北海道SNS)はコミュニケーションツールとして役に立つと。	実験サイトだったんですね。何らかの形で維持・継続は必要だと思います。人口減少がすでに始まり、地域コミュニティも必要。どっとねっとは必要です。個人が何らかの形で運営とか維持に関われる形が見えたと今後の検討に参加しやすいと考えます。	個人には技量と能力の差があるので、維持管理にどのような項目があり、どの分野にどのように関わられるのかがわからない。私のようなPC初心者でも関わられる分野があるとすれば関わりたい。 どっとねっとを維持してゆくために必要なことであれば、9・8懇談会ではそのたたき台のようなものを提示していただけると考えやすいと思います。
6	y.sさん	8/4	利用している 日頃お世話になってます。	生活の句読点になりました。この年で新しい友ができました。	半強制的に誘われたりすること、あくまで自主的な関係でありたい。	それほど規模になっていない。地域の活性化に役立たせるためには500人超の規模が必要かと。	思います。	できることがあればお手伝いしたい。

No	ニックネーム	受付	Q1. あなたはどっとねっとを利用していますか？(その内容)	Q2. これまで使ってみて「よかった」「なにかに役立った」と思ったことはありますか？それはどんなことですか？	Q3. これまで使ってみて苦労したり、ちょっと疑問に思ったり、不満を感じたり、特に改善して欲しいと思ったことはありますか？それはどんなことですか？	Q4. これまで使ってみて、これからの北海道の各地でも、コミュニケーションや地域の活性化に役立つと思いますか？	Q5. どっとねっとは、今年度で予定の社会実験が終了し、次の段階を迎えています。この「どっとねっと」をなんらかの形で維持・継続した方がいいと思いますか？	Q6. 運営には動作環境の点検など日常的な管理と連絡体制が必要ですが、あなたは日常的なネット巡回や維持管理の一部について、奉仕活動としてとして協力するつもりはありますか？また、あなたの思いやアイデアがあればお聞かせください。
7	k.mさん	8/5	利用している 一応、毎日覗いています。ちなみにこのほかにまちづくり系で、別府八湯メールにも加盟していますが、こちらは自動的に受信しますので、メールを開けないと利用できません。	やはり、いろいろな意見や情報が吸収できることです。若い方の参加が少ないということで、流行りモノに対するスピード感溢れる対応は少ないですが、そのかわり中高年の方々の時勢を取り込もうとするエネルギー、様々な社会経験によって培われた考え方はとても参考になります。	写真を掲載する場合、縮小しなくてはならないのが億劫で、ついつい携帯からの画像を使ってしまいます。そうすると画像がどうしても荒くなってしまい、見づらいのではないかと感じてしまいます。また私の携帯(au)では、pcサイトビューアでないで見られないのですが、出先以外はpcで見ておりますので大きな問題ではありません。ここまでするとそれぞれの書き手の個性が理解できますし、DMに近い内容はメールで送れますから内容に対して特に問題はないと思います。ネットであるがゆえの「虚像」が先行しないように、これだけは守っていきたくて考えています。	十分できると思いますが、地域コミュの構成人数にもよるとは思います。ただ、あまり細かい地域ネタになるとついていけないかもしれません。その面で札幌中心はやむをえないと思います。札幌中心からすぐに地域コミュに飛べるようなリンクの仕方が望ましいかもしれません。	ぜひ維持し、継続していくことを希望します。サーバーなどの維持費の問題もあるでしょうが、これからのコビキタス社会には必要な分野だと考えています。	ボラとして協力いたします。
8	a.uさん	8/6	利用している	日常生活では容易に得ることの出来ない貴重な情報を得ることが出来ました。例えば、特定地域名産、名所情報等です。また、日常生活に関する質問に対して適切に回答していただいたので参加意義は高いと思います。	特にありません。	役立つと思います。また、SNSに参加するには何かしらの目的を与えてあげると参加しやすいと感じました。例えば、「悩み解決型」のコミュニティがあると良いと感じました。経験豊富中高年がいらっしやるので、その方達の知識を活かせればと思います。ただ、「相談事を受けても良い」という親切な方が居る」とした前提ですが…。	継続したほうが良いと思います。このSNSのように中高年が集まる場所は、現実社会では「町内会組織」に近いと思います。しかし、町内会では参加している役員の力関係で、自由発言が出来ないケースも多いと思います。しかし、SNSは土地に拘ることが無いために、極めて自由発言が出来るところに大きなメリットがあると多分思います。つまり、個人能力を100%出し得る集いでもあると感じます。	協力したいと思います。また、奉仕協力は技術な部分に目がいきますが、「誰もが質問でき、誰もが回答できる」という場所を鮮明に打ち出し、そのアドバイザーとなる方を募集しても面白いと思います。この方法ですと、パソコンが苦手でも知識はフル活用できるでしょう。日本で巨大なmixiさえ、中高年が参加しての有意義な場は極めて少ないと思います。どっとねっとの場合は、様々な分野のスペシャリストが多いようにも見受けられますので、その知識をお借りできれば、より良いSNSが構築できるのではないのでしょうか…。
9	h.pさん	8/15	利用している	地域SNSについての意見交換が出来たこと	使い方にもよるとはありますが、特に不満点はありません	SNSがすぐに地域活性化に直結するのは難しいのかもしれませんが、どれだけ参加者を増やせるかということ、一人歩きしていきようなSNSに出来るかが重要だと思います。一部の方々が積極的に使うことにより、どれだけの広がりを見せるのかについては、非常に興味があるところです。地域の人達が、面白がって使ってくれるようなSNS(オフ会多数有り)が理想ではないかと感じています	道内外地域SNSの意見交換の場としては続けて欲しいと思います	自分でも地域SNSを運営していこうと試みっていますが、維持管理についてはなかなか上手く行きません。運営については、ある程度の組織体が必要だと思いますし、書き込んでくれるメンバーを発掘する必要があると思います。また、地域活性化については、ネット上だけではなく、信頼と協力を得るためにも顔を合わせた会議体(懇親会がOK)が必要だと思います
10	k.gさん	8/29	利用している	皆さんの日記により家族で出かける場所の参考になりました。	私自身の反省も込めてなのですが、日記の場所自体がコミュニティとなっているようで、コミュニティの存在が薄い気がします。全体数から見てそうなるのはしょうがないのでしょうか？	役に立つと思います。ただ現状に満足せず一人一人が考え、疑問を声に出すことを忘れなければおのずと活性化されると思います。	ぜひ維持していただきたいと思います。	出来ることは協力は惜しみません。
11	o.wさん	8/31	利用している	コミュニケーション法として 時代に即応していると感じています。通常の社会生活では出会えない人たちと、ネット上で出会い、更に、オフ会という、新たなシーンでの交流や親睦は、現代社会が失いつつある、人と人との交流という輪を広げる場として、良いと感じています。	使う側も、場を提供している側も、相乗で進化しているのではないのでしょうか。	利用法の一つの手段として “場”として、役立つと感じています。	新たな模索や、実験を重ねて頂きながら、ぜひ、存続させて欲しいと、思っています。	存続に必要なであれば、出来る範囲でお手伝いしたいと思います。
12	m.kさん	9/2	利用している。利用しているというよりは、楽しませていただいています。具体的なテーマを持ったコミュが少ないので、それを生かして情報収集またはネットワーキングするという使い方はまだしたことがありません。	どっとねっとのメンバーになってから、日本と北海道に住んでいる人が何を感じて生活しているかがより具体的に伝わってくるようになりました(当方、イギリス在住)。それまで、日本の事情は新聞の見出しだけでしかチェックしていませんでしたが、どっとねっとを始めてから、ニュースがより臨場的かつ身近に感じるようになりました。あと、離れて住んでいる家族/友人との間に共通の知人/友人ができるというのは、大メリットだと思います。以前より、ずっと会話が弾むようになりました。もちろん、一番のメリットは、ネット以外の場所では絶対に会うことができない方と、お話できるということです。	とくにありません。どっとねっと自体が1つのコミュニティみたいになっているのが興味深いです。他の方の日記に突然お邪魔しても、迷惑がられないので、それにはいつも感謝しております。	はい、そう思います。北海道が前提なので、ミクシーと違う文化が生まれていることは確実なように思えます。	個人的には是非継続していただきたいです。	出来る事があれば、是非協力させていただきます。
13	o.cさん	9/6	利用している	地元で年代が近いSNSはここだけです。かなりの数のSNSに入っていますが年齢が違うので話題についていけない。	やっちゃんSNSみたいに字を大きく出来ればいいな。	規模が大きくなれば各地でグループが出来、オフ会が盛んになり交流が深まるのではないのでしょうか。	当然 維持・継続した方がいいと思いますよ。	奉仕活動としてとして協力するつもりは当然ありますよ。なんてたって自分たちのSNSですから。